

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年11月13日

【四半期会計期間】 第51期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）

【会社名】 J B C Cホールディングス株式会社

【英訳名】 JBCC Holdings Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山田 隆司

【本店の所在の場所】 東京都大田区蒲田五丁目37番1号
（ニッセイ アロマ スクエア）

【電話番号】 03(5714)5171（代表）

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 経営管理担当 一木 一夫

【最寄りの連絡場所】 東京都大田区蒲田五丁目37番1号
（ニッセイ アロマ スクエア）

【電話番号】 03(5714)5171（代表）

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 経営管理担当 一木 一夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第50期 第2四半期 連結累計期間	第51期 第2四半期 連結累計期間	第50期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (百万円)	42,868	44,314	93,668
経常利益 (百万円)	160	669	968
四半期(当期)純利益又は四半期純損失() (百万円)	107	305	254
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	87	515	411
純資産額 (百万円)	14,438	14,271	14,064
総資産額 (百万円)	39,053	40,854	43,905
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額() (円)	6.31	17.96	14.97
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	34.0	32.3	29.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,425	1,900	1,883
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	458	587	756
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	40	1,659	1,179
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	4,064	5,185	5,542

回次	第50期 第2四半期 連結会計期間	第51期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額() (円)	3.75	12.67

(注) 1 連結売上高には、消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という。)は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第50期第2四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、第50期、第51期第2四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年9月30日）におけるわが国経済は、消費税増税による駆け込み需要の反動減や円安による原材料価格上昇等による消費へ影響があったものの、全体としては回復基調で推移いたしました。

企業の国内IT投資については、景気の回復を背景に公共部門や大企業の金融部門でのシステムの再構築やシステム統合等の投資が進む一方で、当グループの主な顧客である中堅中小企業では依然慎重な姿勢が続いています。

このような中、今年度は、新たに中期経営計画「Innovate2016」（2014～2016年度）を策定し、情報ソリューション分野、製品開発製造分野においては高付加価値による高利益率の実現を、またディストリビューション分野では売上高の拡大と絶対利益の確保を推進ポイントとして、お客様の成長性に貢献するIT活用を推進しております。

当期の業績については、システム開発の品質改善・強化により利益面の改善を図るとともに、お客様のニーズにあったソリューション提案等により売上の拡大も進めてまいりました。

当第2四半期連結累計期間における事業分野別の概況は、以下の通りです。

[情報ソリューション]

企業の情報システムの構築及び運用保守サービス等を行っている情報ソリューション分野では、システム開発については大型案件の減少があるものの、不採算案件の是正対応、品質改善効果などで利益面の改善を進めてまいりました。サービスについては保守サービスやWindows XPの更新需要が一段落したことによる導入サービスが減少いたしました。システムでは、金融・公共分野の大型案件受注によるIBMソフトウェア等の販売が好調に推移いたしました。これらの結果、売上高は304億20百万円（前年同期比0.5%増）となりました。

[ディストリビューション]

パートナー企業様向けにハードウェア、ソフトウェア及びITサービス等の販売、並びにITサプライ用品及びオフィス文具用品等の販売を行っているディストリビューション分野では、サプライについては消費税率引き上げに伴う需要の反動により販売が減少いたしました。一方で、サーバー、ストレージ等のシステム製品やソフトウェア製品については、新規ビジネスパートナーからの受注増、及びIBM製品の新規保守サービスがディストリビュータ経由の窓口になったことにより販売が増加いたしました。これらの結果、売上高は128億39百万円（前年同期比10.3%増）となりました。

[製品開発製造]

プリンターなどの情報機器及び当グループ独自のソフトウェアの開発・製造・販売を行っている製品開発製造分野では、グループ会社を通じてのJBSソフトウェアの販売については、堅調に推移いたしました。OEMビジネスについては、POS端末用のプリンターの受注増加等により伸びいたしました。これらの結果、売上高は10億54百万円（前年同期比8.7%増）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高443億14百万円（前年同期比3.4%増）、営業利益5億83百万円（前年同期比366.0%増）、経常利益6億69百万円（前年同期比316.5%増）、四半期純利益3億5百万円（前年同期1億7百万円の四半期純損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ30億50百万円減少し、408億54百万円となりました。これは主に商品及び製品が7億90百万円増加した一方、現金及び預金が3億50百万円、受取手形及び売掛金が40億3百万円減少したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末と比べ32億56百万円減少し、265億83百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金が21億78百万円、短期借入金が13億34百万円減少したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末と比べ2億6百万円増加し、142億71百万円となりました。これは主に四半期純利益が3億5百万円、その他有価証券評価差額金が1億48百万円増加した一方、配当金の支払いにより2億12百万円減少したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」といいます。）の残高は、前連結会計年度末に比べ3億57百万円減少し、51億85百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下の通りであります。

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

営業活動による資金の増加は19億円（前年同期は24億25百万円の減少）となりました。増加要因としては、主に税金等調整前四半期純利益6億67百万円、売上債権の減少43億円、減少要因としては、主にたな卸資産の増加7億94百万円、仕入債務の減少22億円によるものです。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

投資活動による資金の減少は5億87百万円（前年同期は4億58百万円の減少）となりました。減少要因としては、主に有形固定資産の取得による支出2億48百万円、無形固定資産の取得による支出1億31百万円、関係会社株式の取得による支出2億円によるものです。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

財務活動による資金の減少は16億59百万円（前年同期は40百万円の減少）となりました。増加要因としては、主に短期借入れによる収入22億80百万円、減少要因としては、主に短期借入金の返済による支出36億13百万円、配当金の支払い2億12百万円によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次の通りです。

<当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針>

当社は、当社の株式の大量取得を目的とする買付が行われる場合においても、当社の企業価値・株主の皆様の共同の利益に資するものであれば、それに応じるか否かは、最終的には株主の皆様のご判断に委ねられるべきものと考えております。また、経営を預かる者として経営効率を高めることにより、企業価値の向上に日々努めていくことが重要であると考えております。

しかしながら、高値での売り抜け目的や事業のための特定の重要な資産や技術の取得または切り売り等、その目的等から見て当社の企業価値及び株主の皆様の共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主の皆様に株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの、取締役会や株主の皆様が株式の大量買付行為について検討し、あるいは取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、買付者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買付者との交渉を要するものなど、当社の企業価値及び株主の皆様の共同の利益に反する場合もあり、そういった不当な買収者から当社が築いてきた企業価値や株主の皆様を始めとするステークホルダーの利益を守る必要が生ずる場合も想定されます。

このようなことから、当社の株式の大量取得を目的とする買付が仮に発生した場合、当該買付者の事業内容、将来の事業計画や過去の投資行動の傾向及び実績等から、当該買付行為が当社の企業価値及び株主の皆様の共同の利益に与える影響を慎重に検討することもまた重要であると認識いたしております。

現在のところ、当社には、当社株式の大量買付に関して、差し迫った具体的脅威は発生いたしておりません。また、当社といたしましても、そのような買付者が出現した場合の具体的な取り組み（いわゆる「敵対的買収防衛策」）を予め定めるものではありません。

しかしながら、当社といたしましては、株主の皆様から付託を受けた経営者の責務として、当社株式の取引の状況や株主構成の異動の状況等を常に注視しつつ、発生の場合の初動体制を整えるほか、当社株式の大量取得を企図する者が出現した場合には、社外の専門家も交え、当該買付者の意図の確認、事業計画の評価及び交渉を行い、当該買付行為が当社の企業価値及び株主の皆様の共同の利益に資さない場合には、具体的な対抗措置の要否及びその内容等を速やかに決定・開示し、適切な対抗措置を実行する体制を直ちに整える所存です。

なお、本基本方針の内容につきましては、買収行為を巡る法制度の整備や関係当局の判断及び見解も考慮しつつ、世の中の動向も見極め、今後も継続して見直しを行ってまいります。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は2億75百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	86,000,000
計	86,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	17,711,543	17,711,543	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	17,711,543	17,711,543	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日	-	17,711	-	4,687	-	4,760

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
J B グループ社員持株会	東京都大田区蒲田5丁目37番1号 ニッセイアロ マスクエア15F	1,374	7.75
クレディ スイス ルクセンブル グ エスエー オン ビハーフ オ ブ クライアンツ (常任代理人 株式会社三菱東京U F J 銀行)	56,Grand Rue L-1660 Luxembourg (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	475	2.68
富国生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス信 託銀行株式会社)	東京都千代田区内幸町2丁目2番2号 (東京都中央区晴海1丁目8番12号 晴海アイラ ンドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟)	414	2.34
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	400	2.26
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	356	2.01
谷口 君代	東京都三鷹市	348	1.96
資産管理サービス信託銀行株式会社 (年金信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号 晴海アイラ ンドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟	279	1.57
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 日本生命 証券管理部内	267	1.51
新谷 繁八	神奈川県横浜市都筑区	237	1.34
メロン バンク トリーティーク ライアンツ オムニバス (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	One Boston Place Boston, MA 02108, USA (東京都中央区月島4丁目16番13号)	228	1.28
計	-	4,381	24.74

(注) 提出会社は、自己株式696千株(3.93%)を保有しておりますが、上記の大株主からは除いております。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 696,700	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,998,400	169,984	同上
単元未満株式	普通株式 16,443	-	同上
発行済株式総数	17,711,543	-	-
総株主の議決権	-	169,984	-

(注) 1 「単元未満株式数」には当社所有の自己株式90株が含まれております。

2 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が700株(議決権7個)含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) J B C Cホールディングス株式会社	東京都大田区蒲田五丁目37番1号 ニッセイアロマスクエア	696,700	-	696,700	3.93
計	-	696,700	-	696,700	3.93

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、あらた監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,037	5,686
受取手形及び売掛金	21,534	17,531
商品及び製品	1,593	2,384
仕掛品	429	452
原材料及び貯蔵品	642	623
その他	3,477	3,687
貸倒引当金	75	69
流動資産合計	33,641	30,297
固定資産		
有形固定資産	2,287	2,449
無形固定資産		
のれん	1,052	1,015
その他	839	836
無形固定資産合計	1,891	1,851
投資その他の資産		
その他	6,268	6,442
貸倒引当金	184	186
投資その他の資産合計	6,083	6,255
固定資産合計	10,263	10,557
資産合計	43,905	40,854
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,860	9,681
短期借入金	3,090	1,755
未払法人税等	505	406
販売等奨励引当金	63	26
受注損失引当金	19	3
その他	6,088	6,422
流動負債合計	21,627	18,297
固定負債		
退職給付に係る負債	7,636	7,700
役員退職慰労引当金	11	13
資産除去債務	300	302
負ののれん	4	2
その他	260	268
固定負債合計	8,212	8,286
負債合計	29,840	26,583

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,687	4,687
資本剰余金	4,760	4,760
利益剰余金	4,181	4,274
自己株式	453	454
株主資本合計	13,175	13,268
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	196	344
為替換算調整勘定	31	20
退職給付に係る調整累計額	487	449
その他の包括利益累計額合計	259	84
少数株主持分	1,148	1,087
純資産合計	14,064	14,271
負債純資産合計	43,905	40,854

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
売上高	42,868	44,314
売上原価	34,527	35,472
売上総利益	8,341	8,841
販売費及び一般管理費	1 8,215	1 8,258
営業利益	125	583
営業外収益		
受取配当金	23	24
受取保険料	26	15
持分法による投資利益	-	28
助成金収入	18	15
貸倒引当金戻入額	-	8
その他	22	14
営業外収益合計	91	108
営業外費用		
支払利息	17	16
支払手数料	5	4
為替差損	7	0
持分法による投資損失	22	-
その他	2	1
営業外費用合計	55	22
経常利益	160	669
特別利益		
負ののれん発生益	71	-
特別利益合計	71	-
特別損失		
固定資産除却損	4	2
減損損失	21	-
その他	5	-
特別損失合計	30	2
税金等調整前四半期純利益	201	667
法人税等	145	326
少数株主損益調整前四半期純利益	55	340
少数株主利益	162	35
四半期純利益又は四半期純損失 ()	107	305

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	55	340
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17	148
為替換算調整勘定	14	10
退職給付に係る調整額	-	37
その他の包括利益合計	32	175
四半期包括利益	87	515
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	76	480
少数株主に係る四半期包括利益	163	35

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	201	667
減価償却費	383	313
減損損失	21	-
のれん償却額	141	156
負ののれん発生益	71	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	4	4
退職給付引当金の増減額(は減少)	13	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	122
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	35	1
受取利息及び受取配当金	24	27
支払利息	17	16
支払手数料	5	4
持分法による投資損益(は益)	22	28
売上債権の増減額(は増加)	1,412	4,300
たな卸資産の増減額(は増加)	1,279	794
仕入債務の増減額(は減少)	2,012	2,200
その他	1,009	391
小計	2,237	2,136
利息及び配当金の受取額	19	24
利息の支払額	17	16
手数料の支払額	1	2
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	188	241
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,425	1,900
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	122	248
無形固定資産の取得による支出	147	131
投資有価証券の取得による支出	3	2
関係会社株式の取得による支出	47	200
敷金及び保証金の差入による支出	198	21
その他	62	15
投資活動によるキャッシュ・フロー	458	587
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,496	2,280
短期借入金の返済による支出	1,181	3,613
長期借入金の返済による支出	1	-
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	212	212
少数株主への配当金の支払額	19	17
リース債務の返済による支出	121	96
財務活動によるキャッシュ・フロー	40	1,659
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	10
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,917	357
現金及び現金同等物の期首残高	6,981	5,542
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,064	15,185

【注記事項】

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

なお、この変更に伴う当第2四半期連結累計期間の期首利益剰余金及び損益に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主なもの

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
給与	3,289百万円	3,438百万円
賞与	831	950
退職給付費用	251	255
販売等奨励引当金繰入額	26	33
のれん償却額	152	158
研究開発費	358	275

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
現金及び預金	4,555百万円	5,686百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	491	501
現金及び現金同等物	4,064	5,185

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年4月30日 取締役会	普通株式	212	12.50	平成25年3月31日	平成25年6月17日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年10月31日 取締役会	普通株式	212	12.50	平成25年9月30日	平成25年12月2日	利益剰余金

2 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年4月30日 取締役会	普通株式	212	12.50	平成26年3月31日	平成26年6月18日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年10月30日 取締役会	普通株式	212	12.50	平成26年9月30日	平成26年12月1日	利益剰余金

2 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	情報ソリューション	ディストリ ビューション	製品開発製造	計		
売上高						
外部顧客への売上高	30,260	11,637	970	42,868	-	42,868
セグメント間の内部 売上高又は振替高	380	7,720	607	8,708	8,708	-
計	30,641	19,357	1,577	51,577	8,708	42,868
セグメント利益	366	171	116	655	529	125

(注)1. セグメント利益の調整額 529百万円には、セグメント間取引消去 11百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 518百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「情報ソリューション」セグメントにおいて(株)アイ・ラーニングの株式を少数株主から追加取得したことにより、当第2四半期連結累計期間において71百万円の負ののれん発生益を計上しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	情報ソリューション	ディストリ ビューション	製品開発製造	計		
売上高						
外部顧客への売上高	30,420	12,839	1,054	44,314	-	44,314
セグメント間の内部 売上高又は振替高	398	8,345	620	9,364	9,364	-
計	30,818	21,184	1,675	53,678	9,364	44,314
セグメント利益	637	270	153	1,062	478	583

(注)1. セグメント利益の調整額 478百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 479百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「情報ソリューション」セグメントにおいて(株)リードレックスの株式を少数株主から追加取得したことにより、当第2四半期連結累計期間において、のれんが121百万円増加しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	6円31銭	17円96銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (百万円)	107	305
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(百万円)	107	305
普通株式の期中平均株式数(株)	17,015,122	17,014,861

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第2四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、当第2四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第51期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)中間配当については、平成26年10月30日開催の取締役会において、平成26年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次の通り中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	2億12百万円
1株当たりの金額	12円50銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成26年12月1日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月13日

J B C Cホールディングス株式会社
取締役会 御 中

あらた監査法人

指 定 社 員 業 務 執 行 社 員	公 認 会 計 士	澤 山 宏 行
指 定 社 員 業 務 執 行 社 員	公 認 会 計 士	岩 尾 健 太 郎

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているJ B C Cホールディングス株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、J B C Cホールディングス株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は、当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。